

油川コミュニティを考える会

地域探訪ツアー

青森四国八十八ヶ所霊場巡り

報告書



青森四国八十八ヶ所霊場巡り報告書の発刊にあたってのお祝い

青森市長 鹿内博

青森四国八十八ヶ所霊場巡り報告書の発刊、誠におめでとうございます。

当報告書の作成にあたりましては、調査研究を目的に、昨年度から今年度の2か年にわたって、元氣町あぶらかわ街づくり委員会委員長の木村慎一氏をはじめ、油川コミュニティを考える会の葛西代表や役員の皆様により、地域探訪ツアーが実施されたと伺っております。このツアーでは、石仏一体ごとにお手入れや参拝をしながら、山道を約5時間かけて、石仏を奉納された方のお名前や御本尊名などについて記録しながら廻られたとのことであり、皆様の熱意と行動力に敬意と感謝を表する次第であります。また、このように、歴史的に重要な青森の宝を、大切に守り伝えてられました歴史の信道院の任職の皆様から感謝申し上げます。

青森四国八十八ヶ所霊場につきましては、その名のとおり、四国八十八ヶ所霊場を模し昭和八年九月に開山され、その開山式にあつては、約八百人の人々により盛大に挙行されたとの記録にあるとおり、当時の人々の注目を一心に集めた出来事でありました。また、石仏の奉納につきましては、当時の油川町と青森市の方をはじめ、浅虫村や富柳村（現浪岡地域）、遠くは北海道からも奉納があったとのことであり、まさに地域の力を結集した霊場であつたことがうかがわれます。

これまで、霊場や寺社などを廻る巡礼につきましては、従来の修行や信仰はもとより、癒し、自分探しといった心身の健康増進又は観光などの目的も加わりながら、多くの人々に浸透して参りました。このたび、皆様が作成されました青森四国八十八ヶ所巡り報告書は、信道院はじめ油川市民センターや小・中学校にも寄贈されるとのことであり、このように油川地域の歴史が、油川地域に留まらず市内外に、また後世の人々に引き継がれ、広く語り継がれていくことが大切です。

そして、こちらから霊場を巡る人々の道標としての活用はもとより、実際に霊場を巡ることができない方にとっても、同様の思いを巡らすことが出来る貴重な資料として活用されることを思います。

油川コミュニティを考える会の皆様による、このたびの報告書作成に向けた活動も含め、日々の献身的かつ精力的なコミュニティ活動に対し、改めて敬意を表するとともに、これからのますますの御活躍を期待いたしまして、青森四国八十八ヶ所霊場巡り報告書の発刊にあたってのお祝いの言葉といたします。

平成二十四年九月

「青森四国八十八ヶ所霊場」について

元氣町油川街づくり委員会

委員長 木村 慎一

六十六年前の一九四七年（昭和二十年）の夏、油川の我が家に南津軽郡藤崎町在の田舎から、当時五八歳の祖母が、私ども孫達の顔を見ようといそいそとやってきた。その際親達の会話の中で「次に来たときは、八十八ヶ所を必ずか（駆）げねばまいね。」と語っていたことが、なぜか今も記憶にある。「八十八ヶ所」ってそれ程大した所なのかなと、当時中学生の私は疑問に思った。

「八十八ヶ所」が野木和の奥の鶴ヶ峰一帯の山地を巡って開山かいざんしたのは、一九三三年（昭和八年）の九月であった。その話題は、祖母が油川を訪ねた一九四七年（昭和二十年）には、すでに南津軽郡の田舎のすみずみに伝わっていたことになる。

一九三三年（昭和八年）と言えば、現在の野木和団地に旧青森飛行場が開港した年でもある。空港の竣工記念祝賀会には見物人が二万人集まった。その年の油川の人口は約五千人であった。一九七〇年（昭和四五年）、油川中学校郷土研究部は、地元の名所でもある八十八ヶ所霊場を実施調査し、その記録を部報「郷土研2号」に集録し今に残した。この年教室での学習会が始まったのが四月二六日で、実施調査を先ず終えたのは夏休み中の八月十一日。調査は、翌四六年にも部の後輩たちに引き継がれ、足かけ二年間続けられた。初年度の指導には私が当たった。

一九七一年（昭和四六年）三月二五日発行「郷土研2号」に、調査活動の中心として活躍した三年佐藤恵美子が、「青森四国八十八ヶ所霊場」と題して報告書を載せている。以下引用してみよう。

信道院住職夫人とのインタビュー記事から。聞き手佐藤恵美子。

「問」どんな理由でここに八十八ヶ所をひらいたのですか・・・

「答」霊場を開いた人は私たちの祖父の荻原信道です。おじいさんは九州に生まれましたが、小さい頃はとても体が弱く、お医者様から、この子は助からないだろうと言われたそうです。でも、両親はあきらめられず、神様や仏様に熱心に祈り続けました。何年かして、おじいさんがだんだん丈夫になり、とうとう健康な男の子に育ちました。おじいさんは、丈夫な体にしてくれた仏様にお礼をしなければならぬと思って、大人になってから九州から四国に入り、八十八ヶ所

の札所巡礼を始めたそうです。

満願を終えたおじいさんは、このありがたいお大師様（弘法大師）の恵みを自分一人だけ授かるのではなく、不治の病や、悩みで苦しんでいる全国各地の人々にも授けなければならぬと、昭和のはじめ北海道に渡り、まず函館の近くに八十八体の石仏を巡拝する霊場を開きました。ここでは目が不自由な方の目が直ったり、その外沢山の方がお大師様のご利益（りやく）に預かったそうです。でも、おじいさんは、もっと多くの人々を仏の恵みで救ってあげたいと考え、一九三三年（昭和八年）津軽海峡を渡って油川の地に更にもう一ヶ所の霊場を開いたのです。

「問」石の仏様に国分寺だとか岩谷寺だとかお寺の名前が彫られているのはなぜですか・・・

「答」それは、四国八十八ヶ所の札所寺の名前です。また、阿弥陀如来とか千手（せんじゅ）観音とかも彫られています、それは各札所寺の「本尊様の名前です。」

（以下略）

本尊とは、お寺の本堂の一番奥の高い壇の真ん中に居る仏様で、その寺で最も大事な仏様のこと。例えば油川浄満寺の本尊は阿弥陀如来で、一段下の協侍は、向って右に観世音菩薩、左に勢至菩薩が居り、この組み合わせは阿弥陀三尊仏で、浄土宗の寺院は大抵この形になる。三尊仏をまつる壇を須弥壇という。油川八十八ヶ所霊場の本山とも言つべき四国八十八ヶ所霊場は、真言宗の開祖弘法大師（空海）の遺蹟を巡拝するもので、鎌倉時代から行なわれてきた。まず徳島県鳴門市の一番寺霊山寺をスタートし、高知県、愛媛県、香川県内にまたがる八十七ヶ寺を廻り、最後は香川県讃岐市の八十八番大窪寺に詣でて万願となる。この札所寺院を巡拝することを特に「遍路」という。

さて、油川八十八ヶ所石仏四九番を登りきれば少し展望が開けた高台に出る。ここに休憩所を兼ねた奥の院が建っている。本報告書に、ここの棟札の写真を載せている事は貴重である。城や寺社仏閣、民家や土蔵等調査の際は、何をおいても棟札を探し求める。棟札は、建物の棟木を支える束柱に架けられ、天井の上にあるもので普通は見えない。奥の院束柱に架けられた棟札の願文は、「道中安全の為、新しく安息所を建立し奉る（向って左から）諸天の善神（一行とんで右）皆来たりて守護せん。」と読んでみた。右

下の「當主八十八ヶ所靈場」はこの棟札の奉納者である。中央上の梵字は愛染明王と解せるが、奥の院本尊火災不動のかかわりは分からない。向って右上梵字は大日如来とも読め、左上は薬師如来だろう。五十番附近の高台の諸石仏の配置からみて、ここが山岳宗教修験道の山とも目されているからだろう。ちなみに、油川伝馬の熊野宮の棟札は、江戸時代前期一六六六年（寛文六年）の奉納で、中世地域史解明の貴重な歴史資料。これは『新青森市史・資料編2・古代中世編』に、写真グラビアカラー版で載っている。

信道院境内に立つ修業大師（弘法大師）空海）像の建立施主について、当時の東奥日報記事を載せている。この修業大師は、油川の窪田萬吉が独力で寄進したとあり、その経費は千円也という。一九三三年（昭和八年）の米価は米一石（一五〇キロ）二十一円。当時二十円もあれば一ヶ月一家族楽に暮らせた。千円は、さしずめ現在の一千万円に相当しよう。窪田家は先代兼一が大正期に漁業海産物商で富を上げ、油川町多額納税者のトップに居た。昭和に入って女婿萬吉が更に富を割いて見内各地の寺社仏閣に高額の寄進をしたことでもよく知られている。例えば現平川市の猿賀神社入口にそびえる大鳥居は、一九二八年（昭和三年）すべて萬吉が自費で奉納した。その際、年内に奉納行事一切も賄ったというから換算すれば諸経費合計一億円ぐらいの出費であったろう。昭和初期油川の産業経済の活況を示す一例であった。

又、子安大師は、県内外から子宝を授かりたい方たちの救いの仏様としても知られている。各石仏の台座に名前をとどめられた方は、ほとんどが他界されたが、それでもまだご健在の方もおられる。それは、石仏の寄進者が家族全員の名前を彫らせ、その中に昭和初年生まれの子供や赤ん坊も入っていたからである。

「青森四国八十八ヶ所靈場巡り報告書」は、石仏の写真集として鑑賞することもできる。各石仏一体一体の顔の表情が豊かに撮られていて、この何とも優しい表情は何回見ても心が和むのである。撮影担当者の技術はともかく、さぞ仏教文化にも造詣のある方であろうか。

今回の調査事業、報告書作成の中心となったのは、「油川コミュニティを考える会」の監事佐藤剛氏で、調査から報告書の発行まで三カ年に渡ったご苦労に心から敬意を表したい。ちなみに、かつて油川中学校

郷土研究部の調査活動のリーダー佐藤恵美子は、氏の妹である。地域掘り起こし活動で、兄と妹が四十年も時を隔て、全く偶然に貢献した事実は、この町の明るい話題として紹介しておきたい。

なお、発祥地四国八十八ヶ所霊場に習い、国内各地には八十八ヶ寺の札所寺院を編成した本格的な霊場が二十八ヶ所あり、その最北端の霊場は、一九九五年（平成七年）に開山した関東四国八十八ヶ所霊場でここは、一都五県にまたがる真言宗寺院八十八ヶ寺札所としている。油川の「青森四国八十八ヶ所霊場」のように石仏のみを巡る霊場は県内外にもっとあると思う。

油川の「青森四国八十八ヶ所霊場」は、地元の幼稚園、小学校、中学校の格好な遠足地であった。本来は信仰の山ではあるが、ピクニック気分で訪れる人も多い。石仏めぐりを、“地蔵様かげる”という人もいるがそれでもいいではないか。春はミスバシヨの大群落、秋は紅葉、四季おりおりの小鳥の鳴き声など聞きながら、自然の息吹を満喫する^{いぶき}ためにも、もっと多くの人々に来てもらいたい。

「発刊にあたって」

宗教法人修験道信道院住職 伊藤信教

此度の編集にご尽力下さいました油川コミュニティを考える会の皆様へ、お寺を代表しまして、感謝申し上げます。

当山は、来年で開山より八十年を迎えます。昭和八年に、初代住職荻原信道和尚が、「青森大師講」として野木和の地に、四国八十八ヶ所の尊像を、信者各位の寄進により二里（8キロ）に安置して以来、多くの人々の護信心に支えられて現在に至りました。当山は、七月十日を「観音功德日」とし、当日は早朝より多くの方々が八十八ヶ所を参拝され、お観音様と縁を結ばれております。参拝に当り、皆様の願い事は「家内安全」・「先祖代々」等様々なれど、当山に安置しております百数対の佛・菩薩は信道院ご本尊「弘法大師空海上人」様と共に、お聞き届けの事と確信してお祈りします。

今回の発刊に当たり、一体一体の寄進者住所・氏名が克明に記載されておりますので、多くの人々の身に触れて、八十年前に寄進戴きました信者各位様の血縁者様等が、再び故人の得業を偲び御参拝戴ければと思います。また、初めて当山をお知りになられた方には、これも御仏のお導きと思いい、八十八ヶ所を御参拝戴ければ存じます。

最後に、青森四国八十八ヶ所霊場が未来永劫、衆生救済の功德修行の場として、存在し続ける為に、皆様の御信心及び御協力を切にお願い申し上げます。

合唱

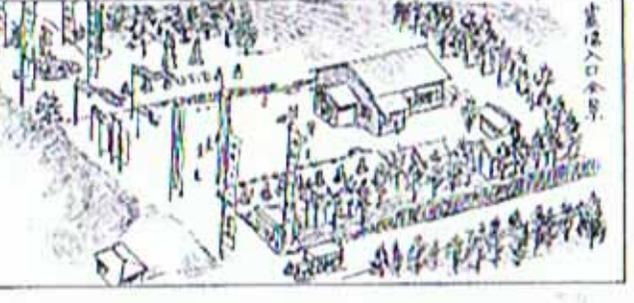
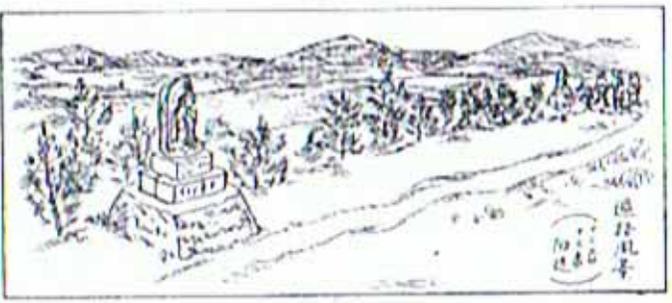
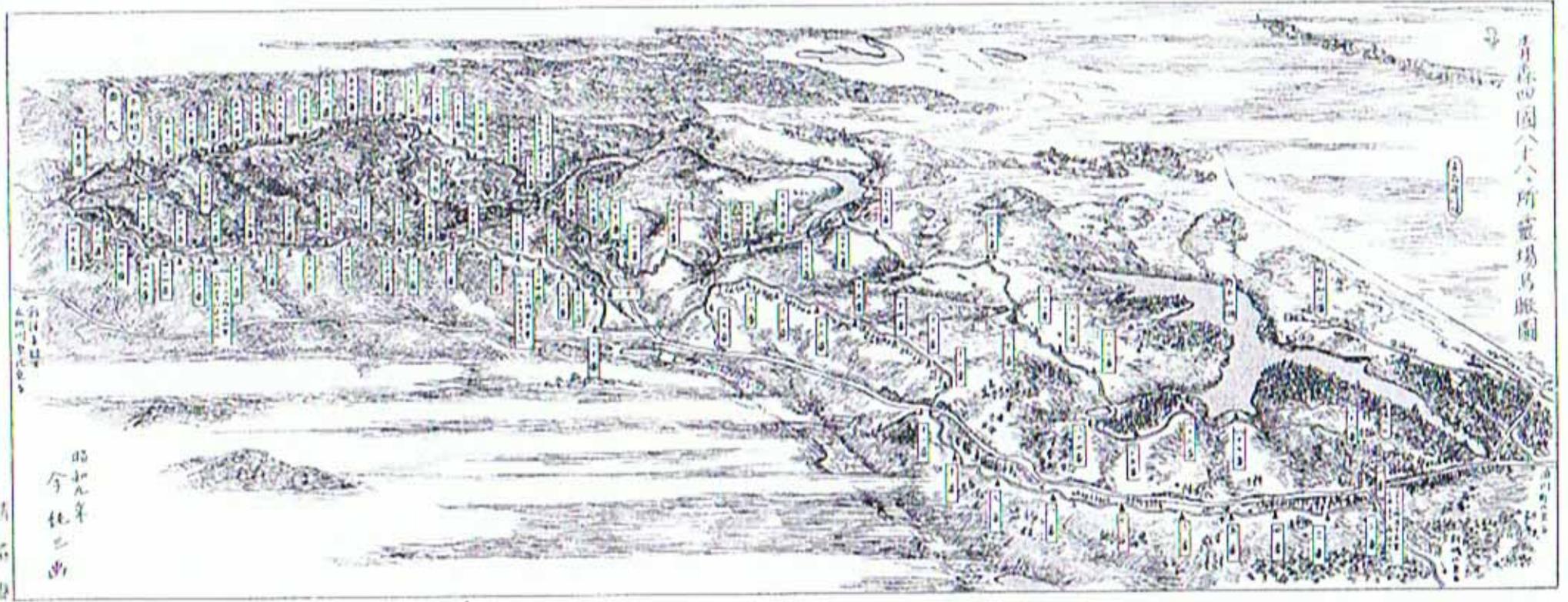
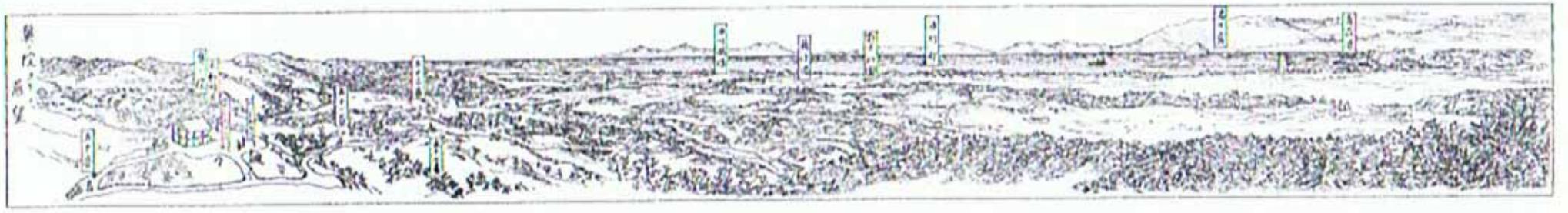
「靈場道案内」

四国に於ける八十八ヶ所の眞言宗の靈地になぞらへて、青森大師講で油川町に四國靈場の分靈を勸請し、青森四國八十八ヶ所靈場の建立を企て、昭和八年九月十日に冷泉宮頼仁親王正嫡五流正統尊瀧院主宮家龍興師の臨席のもとに開山式が行はれた。

油川の町から山手へ飯詰街道をしばらく行くと野木和湖畔に出るが、そこからわづか上つたところに靈場の入り口がある。そして大体油川と新城の境界線に沿って先ず一番釈迦如来靈山寺から二番阿弥陀如来極楽寺、二番から三番釈迦如来金泉寺へと順路がはじまり、ゆるい高低のある丘陵地を大きく上り下りするうちに十九番地藏菩薩立江寺に達する、此処から一旦下って又上りとなるがそれから松の繁った山の小峯伝ひとなり、五十番薬師如来繁多寺で奥の院に達する。

此処までは往路となつて居る。此処からの四週の眺望は誠に美しい、図中略図によりて示してあるが、右に更に新城村が手にとる様に続くのである。古来此の一带は名勝地とされて居り鶴ヶ峯と云はれ山形が丁度鶴が両翼を拡げた形になつて居る。岐路は往路とは別の鶴の翼の峯伝ひに下る訳であるが、八十八番薬師如来大窪寺でまた元へもどることになり往復大体二里の行程となる。

弘法大師に依する巡歴の善男善女が丘のかけ、峯の木の間に見えがくれする風景はまた一幅の畫となるべきものであらう。



青森西國八十八所靈場

青森四国八十八ヶ所霊場

信道院への 交通アクセス

① JR津軽線「油川駅」より 約2.3km車で3分



② JR奥羽本線「津軽新城駅」より

..... 約4.0km車で4分



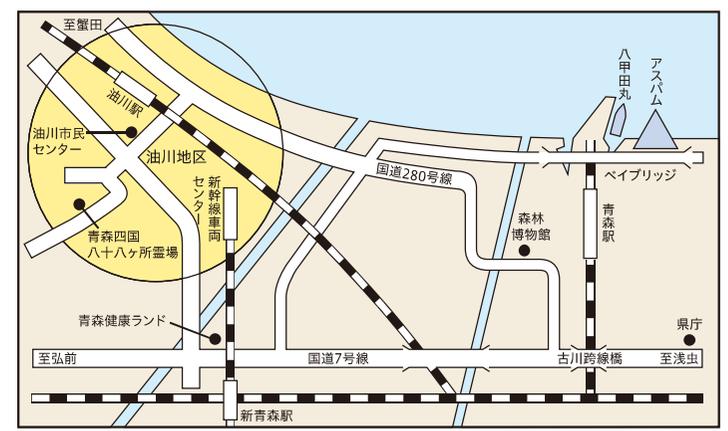
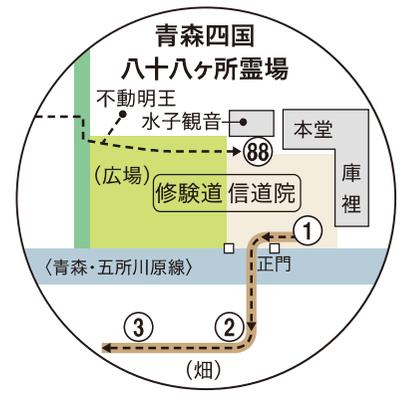
③ 東北新幹線「新青森駅」より

..... 約4.0km車で4分



青森四国八十八ヶ所霊場 ツアーマップ

- コース一周8km(約4時間)
- コースの途中には水飲場、トイレはありません
- 山道を歩く服装や装備を準備してご参加ください



●このマップは、元気町あぶらかわ子供教室の「石仏案内図」を基に加筆・修正したものです。

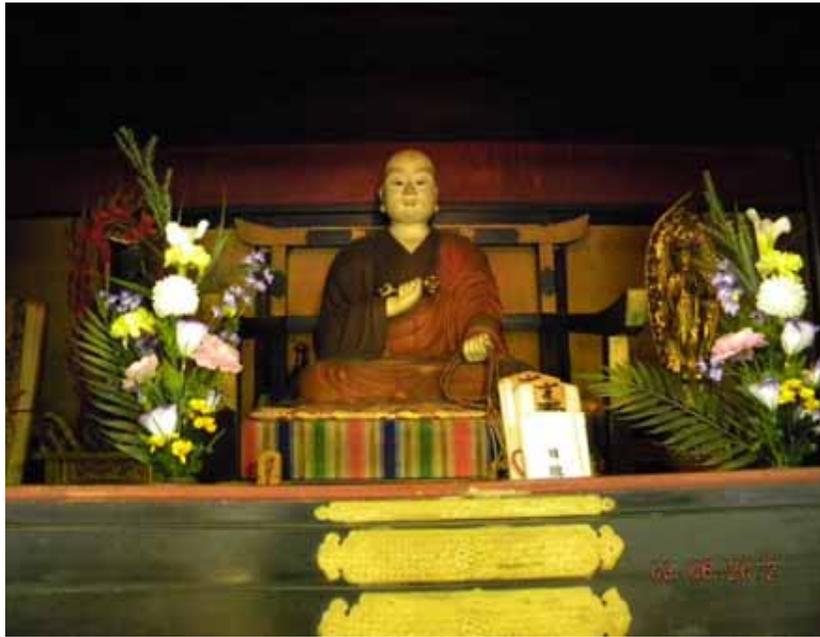
霊場入口



空海(弘法大師)が、開山した四国八十八ヶ所1番寺から88番寺の本尊を模したもので、野木和公園西側山麓の信道院を起点に鶴ヶ峯山中一円約8 Km程の上り下りの細道に八十八体の石仏が鎮座されています。本霊場は、青森市内で唯一宗教法人「修験道信道院」として登録されており、本堂須弥壇には弘法大師像が本尊として安置され、予言・加持・祈祷等が行なわれています。

開山した故住職荻原國策は、九州出身で幼少の頃からの大病を患い親、医師からも見放されことから信仰心に目覚めその後、全快し四国八十八ヶ所の巡礼を重ねて、初めに北海道函館に開山しました。

昭和8年9月8日、梵珠山連と青森湾の眺望に霊鳥飛び合う山紫水明の地で、諸神諸仏が鎮座するには絶好の霊域として、2番目の霊場をあぶらかわの地に開山されました。

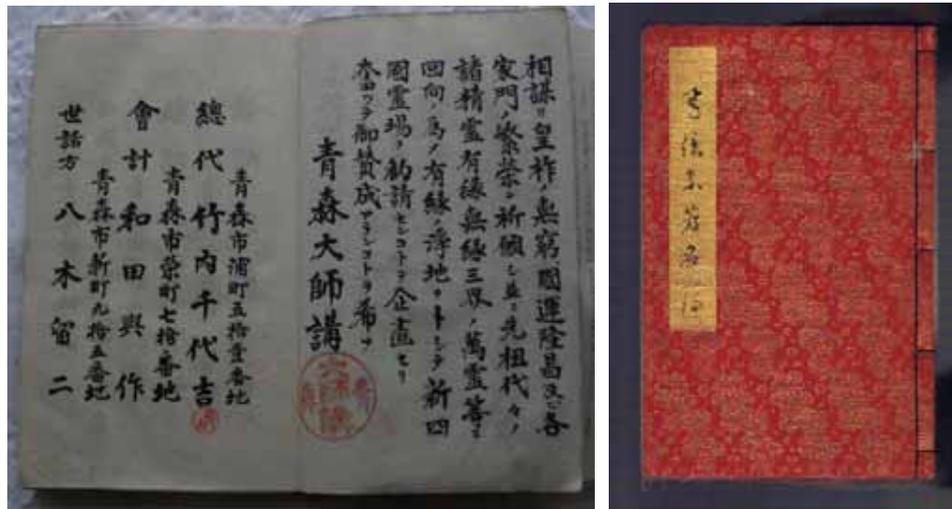


信道院御本尊(大師木彫坐像)

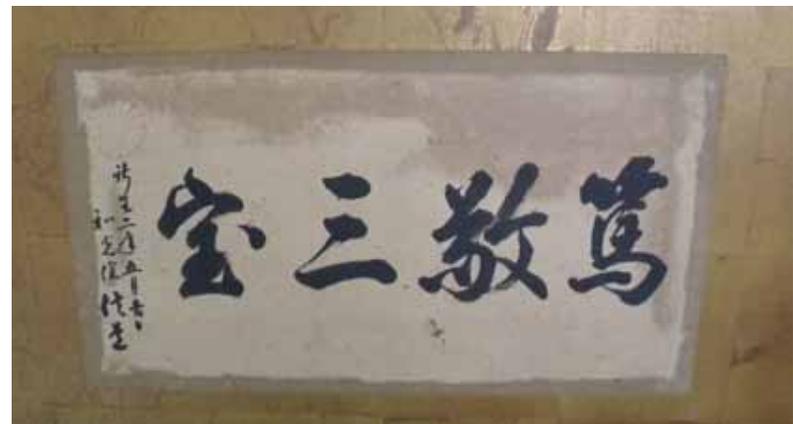
開山祖墓標



開山祖荻原信道直筆書



石仏等奉納者名簿





一番札所之 石塔

奉納者姓名

奉納
瀧澤初太郎
小山内 傳

昭和九年旧三月
二十一日建立



一番札所内 座像石仏

本尊名

こんごうひじぞうざぞう
金剛悲地藏坐像

奉納者姓名

長科村
中澤村



一番札所内
座像石仏

本尊名

こんごうほうじぞうざぞう
金剛宝地藏坐像

奉納者姓名

| | | | | |
|----|-------|----|------|-----|
| 全 | 葛西弥兵エ | 全 | 森川善吉 | 油川町 |
| フク | | チセ | | |



一番札所内
座像石仏

本尊名

ほうこうおうじぞうざぞう
放光王地藏坐像

奉納者姓名

| | | | |
|----|----|-------|-----|
| 全 | 全 | 田中喜之助 | 油川町 |
| そわ | とせ | | |



一番札所内
立像石仏

本尊名

こんごうどうじぞうりゅうぞう
金剛幢地藏立像

奉納者姓名

油川町
櫻田要次郎
全そわ



一番札所内
立像石仏

本尊名

こんごうがんじぞうりゅうぞう
金剛願地藏立像

寄進者姓名

羽白村中



一番札所内
立像石仏

本尊名

よてんがじぞうりゅうぞう
預天賀地藏立像

奉納者姓名

新城村
川村常吉
中村宮助
中村松五郎
中村甚作

六地藏について

浄土信仰が普及した平安時代以降、極楽浄土に往生の叶わない子どもを地獄の責苦から守り・救う菩薩という思想から、六道(6種の生命を繰返す世界)において衆生の苦しみを、救済する六種の地藏菩薩と言われている。主に寺院仏閣の入口付近の祠等に安置されている。

像容は、剃髪した僧侶姿に袈裟を纏い、瓔珞を身に着ける。左手に如意宝珠、右手に錫杖を持つ。又右手に代願印相をとる像もある。 Wikipediaより

巡路について

1番～奥の院まで …… 約3.0km 徒歩で59分

奥の院～88番まで …… 約5.0km 徒歩で71分

一番札所内
立像石仏

本尊名

みずこかんぜおん
水子観世音

奉納者姓名

旧三月廿一日
青森金沢
高橋健吉



一番石仏



青森四国八十八ヶ所霊場

本尊名

釋迦如来
しゃくかにょらい

寺号

靈山寺
りょうぜんじ

奉納者姓名

玉田治郎

玉田ちあ

玉田治三郎

青森市

歩行時間

〳 番寄り 〳 秒

四国霊場

本尊

釋迦如来

寺号

靈山寺

山号
さんこう

竺和山
じくわざん

所在地

徳島県鳴門市 (阿波の國)
アワ ケニ

二番 石仏



青森四国八十八ヶ所霊場

本尊名

あみだにょらい
阿弥陀如来

寺号

ごくらくじ
極楽寺

奉納者姓名

柿崎みゑ

石戸谷よ志

全信一

全勇介

工藤トサ

青森市

歩行時間

一番寄り 40秒

四国霊場

本尊

阿弥陀如来

寺号

極楽寺

山号

にっしょうざん
日照山

所在地

徳島県鳴門市（阿波の國）

三番 石仏



青森四国八十八ヶ所霊場

本尊名

釈迦如来
しやかにょらい

寺号

金泉寺
こんせんじ

奉納者姓名

青森市

齊藤忠八

齊藤清作

三橋長次郎

齊藤庄作

三橋長吉

歩行時間

二番寄り 20秒

四国霊場

本尊

釈迦如来

寺号

金泉寺

山号

亀光山
きこうざん

所在地

徳島県
板野郡板野町 (阿波の國)

四番 石仏



青森四国八十八ヶ所霊場

本尊名

だいにちによらい
大日如来

寺号

だいにちじ
大日寺

奉納者姓名

青森市
和興田

歩行時間

三番寄り 50秒

四国霊場

本尊

大日如来

寺号

大日寺

山号

こくがんざん
黒巖山

所在地

徳島県
板野郡板野町 (阿波の國)

六番 石仏



青森四国八十八ヶ所霊場

| | | |
|-----------------------------|----------|---------------------------|
| 本尊名 | | |
| 薬師如来 <small>やくしにょらい</small> | | |
| 寺号 | | |
| 安楽寺 <small>あんらくじ</small> | | |
| 奉納者姓名 | | |
| 新谷とよ | 伊藤喜一 | |
| 工藤たみ | 奈良浅吉 | |
| 伊丸岡春吉 | 青森市 | |
| 歩行時間 | 五番寄り 10秒 | |
| 四国霊場 | 本尊 | 薬師如来 |
| | 寺号 | 安楽寺 |
| | 山号 | 温泉山 <small>おんせんざん</small> |
| | 所在地 | 徳島県板野郡板野町 (阿波の國) |

七番 石仏



青森四国八十八ヶ所霊場

| | | | |
|---------|---------|--------------|----------|
| 本尊名 | | 阿弥陀如来 | |
| 寺号 | | 十楽寺 | |
| 奉納者姓名 | | 油川町 | |
| 全 トシ | 全 シマ | 全 要之助 | 全 幸之助 |
| 今村ミン | | | |
| 歩行時間 | 六番寄り | 515秒 | |
| 四国霊場 | 本尊 | 阿弥陀如来 | |
| | 寺号 | 十楽寺 | |
| | 山号 | 光明山 | |
| | 所在地 | 徳島県阿波市(阿波の國) | |